



北斗句会 二月定例会（六日 偕行社） 兼題「寒」「雪」

五十音順 特選は特選 石田きよし選

御供物を相伴したる寒がらす 大崎石州

群れをなし孤高の境地水仙花 太田黒幸風

瀬戸物の厨の音の寒さかな 大森康政

特 愛らしく鳴いては成さぬ猫の恋 川瀬 亮

通るたびひとつふたつと冬芽起つ 竹内雲泉

特 春立つや百杭ひかる船溜り 田中資凡

立たされし風の廊下や冬木径 長池豆陽

図書館の日溜りに濃き冬堇 深見十万

特 寒の水ほして新たにす決意 藤田紀潮

雪催ひ一枚着込む旅の宿 宮下ひかる

春寒や更地となりし喫茶店 森田光彦

竹林の節の白さや寒に入る 山縣秀雄

抜き付けの一刀試す寒の明 吉岡誠山



俘虜のごと残る白菜縛らるる 石田きよし